

# NEWS LETTER

*Institute of Social Safety Science*

## 地域安全学会ニュースレター No. 71

### －目次－

- |   |   |
|---|---|
| 1. 地域安全学会（春季）大会案内                           | 1 |
| 2. 2010 年度査読論文の募集と投稿方法                      | 3 |
| 3. 地震被害調査速報（東京工業大学・翠川三郎）<br>－チリ地震の調査で感じたこと－ | 5 |
| 4. 第3回地域安全学会技術賞審査報告                         | 7 |
| 5. 広報委員会からのお知らせ                             | 8 |



地域安全学会ニュースレター  
ISSS News Letter

No. 71  
2010. 04

# 1. 地域安全学会（春季）大会案内

1. 2010 年度総会
2. 第 26 回地域安全学会研究発表会（春季）
3. 公開シンポジウム（チリ地震津波災害から 50 年）
4. 現地見学会

岩手県大船渡市で 2010 年度地域安全学会総会および公開シンポジウム等を開催します。今年度も総会にあわせて、第 26 回地域安全学会研究発表会（春季）〈一般論文発表会〉を行いますので積極的な参加をお願いします。

## ■ 第 26 回地域安全学会研究発表会（春季）〈一般論文発表会〉

場所：大船渡市民文化会館（リアスホール）

日時：2010 年 6 月 4 日（金）＝14：00～17：30

- ※ 一般論文の「投稿要領」については前号のニューズレター、ホームページをご参照ください。原稿締め切りは 4 月 30 日（金）です。
- ※ 上記の時間は一般論文発表数により多少の変更があるかもしれません。
- ※ 前号ニューズレターに記載した論文登録のメールアドレスに誤りがあり、大変申し訳ありませんでした。論文登録されて「登録番号のお知らせ」が無かった方がおられましたら、[ippan-haru@isss.info](mailto:ippan-haru@isss.info) までお知らせください。
- ※ 原稿の送付先は [ippan-haru@isss.info](mailto:ippan-haru@isss.info)、発表は口頭発表のみです。

## ■ 総会

場所：大船渡市民文化会館（リアスホール）

日時：2010 年 6 月 4 日（金）17：30～18：30

## ■ 懇親会

場所：大船渡プラザホテル

日時：2010 年 6 月 4 日（金）19：00～21：00

## ■ 公開シンポジウム（後援：大船渡市）

「チリ地震津波災害から 50 年：津波防災対策の現状と課題」

場所：大船渡市民文化会館（リアスホール）

日時：2010 年 6 月 5 日（土）9：30～12：00

◇開会挨拶：地域安全学会長

◇基調講演（90 分）

「チリ地震津波災害から 50 年～津波防災対策の現状と課題～」

首藤 伸夫（東北大学名誉教授）

「低調な津波避難のメカニズムと避難促進の処方箋」

片田 敏孝（群馬大学教授）

◇休憩

◇パネルディスカッション（50 分）

コーディネーター：重川 希志依（富士常葉大学教授）

パネリスト：甘竹 勝郎（大船渡市長）

首藤 伸夫（東北大学名誉教授）

西山 謙一（被災体験者・赤崎地区自主防災組織連合会長）

片田 敏孝（群馬大学教授）

林 勲男（国立民族学博物館准教授）

◇閉会挨拶：地域安全学副会長

## ■ 現地見学会

日時：6月5日（土）＝12：30～16：30

- ・ 湾口防波堤・津波高潮防災ステーション・津波石
- ・ 門の浜潮位観測装置・大船渡市立博物館・津波避難場所、等々

## ■ 新幹線駅・空港からの送迎

<行き>

新幹線＝新花巻駅着（11：27）<集合場所：新花巻駅多目的広場>

航空便＝花巻空港（伊丹空港発 09：55⇒花巻空港着 11：20）<集合場所：花巻空港西口>

<帰り>

航空便＝花巻空港（花巻空港発 18：50⇒伊丹空港着 20：30）

新幹線＝新花巻駅発（18：56）

に間に合うようにバスでお送りします。

## ※ 現地見学会の参加、送迎の利用については以下の要領で参加申し込みをお願いします。

※ 送迎については乗車の確認はいたしません。乗り遅れた場合は各自で大船渡市までお出ください。

○申し込み内容

氏名、連絡先（できれば携帯番号）

○事前申し込み

5月28日（金）17時まで

○申込先

地域安全学会春期大会事務局（担当牧）宛

E-mail：[ippan-haru@iss.info](mailto:ippan-haru@iss.info)（タイトルに「現地見学会申し込み」と明記してください）

## ■ 参加費

参加費（研究発表会、公開シンポジウム）無料

梗概集 4,000円

懇親会 社会人 6,000円（予定）

学生 2,000円

## ■ 宿泊について

大船渡市の宿泊施設については下記のホームページで参照できます。各自、ご予約ください。

懇親会が行われるのは、大船渡プラザホテルです。

[http://www.city.ofunato.iwate.jp/cgi-bin/odb-get.exe?WIT\\_oid=icityv2::Contents::1108&WIT\\_template=AC020000](http://www.city.ofunato.iwate.jp/cgi-bin/odb-get.exe?WIT_oid=icityv2::Contents::1108&WIT_template=AC020000)

## ■ 交通について

送迎利用されない方は下記のルートでお出ください。

上記のコース以外の方は、

新幹線（東京発 9：16 ⇒ 一関駅下車 11：25      バス一関発 11：40⇒さかり下車 14：00

8：20 ⇒ 仙台乗換え 10：55

7：56 ⇒                      10：16      バス一関発 10：40⇒さかり下車 13：00

電車一関発 10：40⇒盛（さかり）下車 13：56

## 2. 2010 年度査読論文（研究発表会論文）の募集と投稿方法

平成 22 年 4 月  
地域安全学会 学術委員会

平成 17 年度から「論文査読システム」は電子申込・電子投稿となっております。2010 年 5 月 20 日(木)正午までの期間内に地域安全学会ホームページ (www.issss.info) から、**論文申込(講演申込を兼ねる)と査読用論文原稿を同時に投稿**してください。

平成 19 年度より、CD-ROM 版論文集を最終成果物として扱うことにより、査読はカラー原稿を前提として行います。カラー図版使用の制約やカラー印刷料金を廃止する一方、冊子体論文集はすべて白黒印刷となり、論文別刷りの作成・送付は行わないこととしておりますので、ご了承ください。

また、平成 21 年度より新たに、別途、審査付の論文集（電子ジャーナル）を発行することとなりました。これに伴い、第二次審査において採用とならなかった論文のうち、一部の修正により採用となる可能性があるものと認められるものは、著者が希望すれば、再度修正・審査を行い、審査の結果、採用となれば地域安全学会論文集（電子ジャーナル）（平成 23 年 3 月発行予定）に掲載します。この場合、修正は 1 回のみとし、執筆要領は本査読論文の執筆要領に準拠します。

会員各位の積極的な査読論文の投稿をお願いします。

### 1. 日程等

- (1) 論文(講演)申込と査読用論文原稿の投稿期限(電子投稿)  
平成 22 年 5 月 20 日(木) 12:00 (正午, 時間厳守)
- (2) 第一次審査結果の通知  
平成 22 年 8 月初旬
- (3) 修正原稿の提出期限(電子投稿)  
平成 22 年 8 月 27 日(金) 12:00 (正午, 時間厳守)
- (4) 「地域安全学会論文集 No. 11」への登載可否の通知  
平成 21 年 9 月下旬
- (5) 登載決定後の最終原稿の提出期限 (PDF ファイルの電子投稿および白黒原稿の郵送)
  - ①PDF ファイルの電子投稿  
平成 22 年 10 月 1 日(金) 12:00 (正午, 時間厳守)
  - ②白黒原稿の郵送  
平成 22 年 10 月 1 日(金) (消印有効)
- (6) 地域安全学会研究発表会での登載可の論文の発表(論文奨励賞の審査を兼ねる)  
月日:平成 22 年 11 月 5 日(金)~6 日(土)  
場所:静岡県地震防災センター
- (7) 論文賞・論文奨励賞授与式(平成 23 年総会に予定)

### 2. 査読料の納入

- (1) 査読料 1 万円/編
- (2) 査読料の納入方法
  - ①期 限:平成 22 年 5 月 21 日(金)までに、②宛てに振り込んで下さい。
  - ②振込先: みずほ銀行 浅草支店  
口座名:地域安全学会 論文口座  
口座種別:普通口座  
口座番号:1540736  
振込者名:受付番号+筆頭著者 (例:2009-000 チイキタロウ)
  - ③その他:査読料の入金確認をもって論文申込手続きの完了とさせていただきます。

### 3. 登載料の納入

- (1) 登載料 (CD-ROM 版論文集 1 枚+冊子体論文集 1 冊を含む)  
6 ページは 2 万円/編、10 頁を限度とする偶数頁の増頁については、5 千円/2 頁。
- (2) 登載料の納入方法  
平成 22 年 10 月 4 日(月)までに、上記 2.(2)-②の振込先に振込んで下さい。

### 4. その他の注意事項

- (1) 申込期間の締切り間際に投稿の集中が見込まれます。予期せぬ事態によりサーバーがダウンし、

受付ができなくなる恐れも出てきます。締切り間際の投稿は極力避けていただくようお願いいたします。

- (2) 論文(講演)申込と査読用論文原稿の電子投稿の概略(詳細は電子投稿システムの指示に従って入力して下さい)

- ・ 申込者の氏名、所属、連絡先、その他の事項を入力する。
- ・ 論文題目、著者、所属、連絡先、その他の事項及び論文概要(250文字程度)を入力する。
- ・ その内容を確認し、必要があれば修正する。
- ・ 原稿ファイル(PDF形式のみ)を指定し、送信する。
- ・ なお、ファイルを送信しただけでは投稿は完了しません。送信後に Web 上での指示に従い、アップされた自分の原稿ファイルをダウンロードし、内容を確認の上、自ら「確認ボタン」を押して下さい。この操作を行うと初めて投稿が完了します。
- ・ 投稿が完了すると、メールにより受付番号とパスワードが通知されるので、電子投稿システムに再度ログインし、投稿ファイルの内容を確認し、必要であれば再投稿する。内容がよければ、申込・投稿を完了する。
- ・ 査読結果は申込者の連絡先に送付されますので、日程をご確認の上、確実に受領できる場所をご指定ください。

- (3) 執筆要領テンプレートの入手方法

「論文集の執筆要領」は、本ニュースレターに示す通りですが、電子ファイル「論文集の執筆要領」テンプレートが、地域安全学会ホームページ(<http://www.issj.info>)にありますので、必ず最新のテンプレートをご利用下さい。なお、審査の公正を高めるため、査読用論文原稿には、氏名、所属および謝辞を記載しないこととしておりますので、ご注意下さい。詳細につきましては「論文集の執筆要領」をご参照下さい。

- (4) 申込だけで原稿が未提出のもの、査読料の払い込みのないもの、電子投稿論文が「論文集の執筆要領」に準じていないもの、および期限後の電子投稿は原則として受理できません。
- (5) 「CD-ROM 版論文集」には、登載決定後に電子投稿いただいた原稿ファイル(PDF形式)に、ページ番号を追加して収録しますので、カラー図版に関する制限はありません。査読用論文原稿の電子投稿と同様の手順で最終原稿の電子投稿をお願いいたします。
- (6) 「冊子体論文集」には、登載決定後に郵送(あるいは宅配便)で提出いただく完全版下原稿を掲載します。平成19年度より冊子体論文集は白黒印刷のみとしましたので、白黒印刷の原稿を作成してお送りいただきます。原稿がカラー版の場合でも白黒印刷となります。

10月の冊子体論文集用の完全版下原稿の提出先(郵送もしくは宅配便のみ)  
〒417-0801 静岡県富士市大淵325番地 富士常葉大学大学院環境防災研究科  
地域安全学会 学術委員長 池田浩敬 宛

---

#### 【使用するブラウザについて】

電子投稿はできるだけ、Internet Explorer から、論文の登録・論文登録内容の更新を行ってください。

---

- 「論文の登録」・・・新規に登録(申込・投稿)する場合
- 「論文登録内容の更新」・・・登録済みの情報を修正したい場合  
(新規登録、更新共に、5月20日(木)正午まで接続できます。)

電子申込・電子投稿に関するお問合せは地域安全学会学術委員会担当までお願いします。

E-mail: [gakujutsu@issj.info](mailto:gakujutsu@issj.info)

#### 会員の皆様へ 論文査読委員へのご協力お願い

「地域安全学会論文集」への投稿論文につきましては、学術委員会にて論文1編あたり2名の査読者を、原則として会員内より選出し、査読依頼をe-mailで送信いたします。査読依頼の時期は6月上旬を予定しております。

地域安全学会の会員各位におかれましては、学術委員会より査読依頼が届きましたら、ご多用中のことと存じますが、ご協力の程、よろしくお願い申し上げます。

### 3. 地震被害調査速報

チリ地震の被害調査で感じたこと

東京工業大学・都市地震工学センター 翠川三郎

2010年2月27日に発生したチリ地震(Mw8.8)の被害調査に3月27日から4月8日まで出かけてきました。ここでは、この地震で感じたことについて思いつくままに述べてみました。

#### 1. なぜ死者が少なかったのか？

4月7日付のチリ内務省の発表では、死者・行方不明者は565名となっている。M8.8という超巨大地震でありながら、M7級のハイチ地震の20万人を越える死者数はもとより兵庫県南部地震の6000名を越える死者数と比べて非常に少ない。この数字の比較から現地では日本に学ぶものはないという論調も一部でみられたそうである。死者が少なかった理由としては、ハイチとは異なり、きちんとした耐震基準があり、それが守られていることや、都市直下地震とは異なり、今回の地震は沖合で発生したため地震動が格段に強かったわけではないことがあげられる。また、人口密度が21人/km<sup>2</sup>と、わが国の16分の1と低いこともあげられる。人口密度の違いを考慮して、単純に565名の死者・行方不明者数を16倍すると約9000名となる。一方、今回の地震と規模や陸地との位置関係が同様の東南海・南海地震が連動して発生すれば2万人近い死者が発生すると予想されており、人口密度で単純に補正したチリの死者数より多い。チリの耐震基準はきちんとしたものではあるものの考慮されている地震力は日本のその半分強程度であること、地方では耐震性に低いアドベ造の建物が多く残されていることなどを考慮すると、両者の数字は逆になってもよいはずである。ただし、人口密度が小さいので、災害に対して危険な場所に住む割合が少ないのかもしれない。また、被災地では、下の写真に示すように津波の避難の看板を多くみかけた。観光客は逃げ遅れたが地元の人々は迅速に避難したという話も聞いた。津波に対する防災意識は高いようにもみえる。結局のところ、死者が少なかったのは何がポイントだったのか、私には今のところ、すっきりとした理解は得られていない。



#### 2. なぜ、ビルが横倒しになったのか？

コンセプションという都市で、あるビルが下の写真のように完全に横倒しとなった。左の写真はビルを横からみたもので、建物は左側に倒れている。右の写真は左の写真の右方



向からみたもので、横倒しになったために1階の天井がみえている。このビルの写真を日本で見たとき、1階の壁の根本が引きちぎられており、非常に不自然な壊れ方だと感じた。現地に行ってみてみると、地下に駐車場があって、地下階がつぶれて建物が傾き、徐々に傾きが増加して、横倒しになったらしい。チリの高層マンションは各戸に駐車スペースを確保するため、地下階全体が駐車場になっている場合が多い。このビルの地下の構造がどうなっているかは確認できないが、被害のあった他のマンションをみると、効率よく駐車スペースを得るために、壁の長さを短くしたり、壁の配置を変えて、上階とは連続していないようになっていたりして、構造計画上、問題がある。このビルでも同様の問題により建物左側の地下階の壁が圧壊して建物が左側に傾き、徐々に傾きが増加して、転倒に至ったものと考えられる。

### 3. 耐震設計の目標は？

大きな被害を受けたマンションを調査していると、マンションの所有者がやってきて、日本の専門家のアドバイスを聞きたいという。技術的なことだけでなく、責任問題なども聞かれて、返答に困ってしまう。日本で多数のマンションが壊れた場合、マンションの取り壊しや建て替えのプロセスはどのようになるのか心配になった。建物の一部に被害があった場合の費用負担の割合を決めるには一悶着ありそうである。豊かな社会になれば地震時の人命確保だけでなく財産確保も強く求められる。各々の建物の施主の意向はもちろんであるが、一般社会がどこまで建物に耐震性を要求しているのかを再度確認しておくことも重要なように感じた。



### 4. なぜ略奪騒ぎが起こったのか？

チリの人々はラテン系の中ではシャイで穏和な性格である。私も20年前にチリに1年ちょっと住んでいたが、激しい性格の人は少なかったように記憶しているので、今回の地震の直後にコンセプションで略奪騒ぎが起こったのには驚いた。コンセプションは人口約30万人のチリで2番目の大都市である。地震後、治安を維持するために約1万人の警察官が動員されたという。地元の人に聞くと、政府からの援助物資の支給は遅かったが、略奪の理由になるほどのものではなかったという。地元の人々の憶測では、最近では、よそものが多く流入し、地域と連帯感のない、これらの人々が略奪騒ぎを起こしたのだという。兵庫県南部地震では被災者は冷静に行動したと世界から称賛されたが、格差社会が進む現在では日本でもひとつとではなくなるのかもしれない。



(4.の写真は石渡幹夫 JICA 専門員による)

## 4. 第3回地域安全学会技術賞審査報告

地域安全学会 表彰委員会

第3回技術賞の募集に対し計2点の応募があり、2010年3月に審査が行われた。

ここでは、その審査要領と審査結果について報告する。

### ■「地域安全学会技術賞」の審査要領(抜粋)

#### 1. 受賞対象者

「地域安全学会技術賞 候補業績募集要領」に基づき応募された「地域社会における安全性および住民の防災意識の向上を目的として開発され、顕著な貢献をしたすぐれた技術（システム、手法、防災グッズ、情報技術、マネジメント技術を含む）」を対象とする。

#### 2. 審査方法

- (1) 表彰委員会委員全員，学会長，副会長，学術委員長，学術委員会副委員長，春季研究発表会実行委員長，秋季研究発表会実行委員長）から構成される技術賞審査会が審査を行う。
- (2) 表彰委員会委員長は，技術賞候補の応募期日後に三分の二以上の構成員を召集し，技術賞審査会を開催する。
- (3) 技術賞審査会では，応募状況の報告，審査方法の確認，および技術賞選定に関する審議と決定を行う。
- (4) 審査は，当該技術の①実績，②有用性・実用性，③革新性・新規性，④一般性・汎用性，および⑤将来性・展開性を考慮した以下の手順に従い，行われる。
- (5) 各審査員は評価シートを用いて，各々の候補技術を上記①から⑤の評価項目に基づき総合的に評価する。そして，すべての候補技術を順位が重ならないように順位づけし，地域安全学会技術賞にふさわしい技術を選定する。
- (6) 表彰委員は，すべての審査員により提出された評価シートに基づき，技術賞受賞候補を選定する。
- (7) 第2次技術賞審査会で技術賞受賞候補について審議を行い，理事会の承認のうえ，受賞技術を決定する。
- (8) 審査の実施細目は別途定める。

### ■審査結果

#### 第3回地域安全学会技術賞

審査会による審議の結果、以下の1点の技術の応募者が選出された。

「地震時の人体被災度計測用ダミーの開発」

受賞代表者： 宮野道雄（大阪市立大学大学院生活科学研究科）

受賞者： 生田英輔／長嶋文雄／梶原浩一／熊谷良雄

## 5. 広報委員会からのお知らせ

会員各位

2010年4月30日  
地域安全学会広報委員会  
委員長 清野 純史

### 地域安全学会ニュースレターへの寄稿について

地域安全学会ニュースレターでは、電子化後の新たな取り組みとして会員の皆様からの寄稿を募集しています。研究最前線、タイムリーな災害のわかりやすい解説、各種被害調査、国際学会の報告、国や地域レベルでの防災・減災活動や教育など、地域安全学会会員の皆様の役に立つ情報をお寄せ下さい。ただし、お寄せいただきました原稿は、広報委員会のレビューを経た上での掲載とさせていただきます。

原稿はA4判4ページ(1ページ40字×43行程度)までにまとめ、郵便番号・連絡先住所・氏名・所属・電話番号・メールアドレスをご記入の上、下記NL寄稿担当までメールにてご投稿下さい。また、メールのタイトルには「地域安全学会NL 寄稿」と明記ください。

皆さまからのご寄稿をお待ちしております。

#### 【寄稿先】

NL 寄稿担当<kiyono@quake.kuciv.kyoto-u.ac.jp>



地域安全学会ニューズレター  
第 71 号 2010 年 4 月

地 域 安 全 学 会 事 務 局  
〒100-6307 東京都千代田区丸の内 2-4-1  
丸の内ビルディング 7 階 725  
(財) 都市防災研究所内  
e-mail: [iss2008@iss.info](mailto:iss2008@iss.info)  
URL: [www.iss.info](http://www.iss.info)

次のニューズレター発行までの最新情報は、学会ホームページ（[www.iss.info](http://www.iss.info)）をご覧ください。